

高松市立前田小 学校だより Tel 847-6562	なろう，なろう あすなろう あすはヒノキになろう	あす なろう なろう あす なろう	2017年 2月7日(火) No. 106号
----------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	------------------------------

春の足音がそこまで ♪♪

校長 岡 静子

暦の上では春となりましたが、まだまだ厳しい寒さが続いています。しかし、陽光は心なしかきらきら輝いて感じられ、春の足音がすぐそこまで近づいて来ているようです。

ご存知のように市内の小学校でも、新型インフルエンザによる学級閉鎖が出ております。本校は今のところ子どもたちは元気に体力作り等に励んでおりますが、油断はできません。学校では、日々、手洗い・うがいの励行に努めていますので、ご家庭でも「保健だより」に掲載されていることにご留意いただき、風邪の予防にお取り組みいただきますようお願いいたします。



さて、今年度も残すところ二ヶ月足らずとなりました。子どもたちは、教室で一年間の学習のまとめに取り組む時期となってきました。青おに給食に訪れた子どもたちに、将来の夢を最近必ず聞くようにしております。子どもによると「将来は保育士」「海上保安官」「小学校の先生」「医師」「ケーキ屋さん」と素敵な夢を語ってくれてほほえましく給食をいただいています。「夢の実現に向かってがんばってね」とエールをおくります。そして、私も教職員も今、一年間を振り返り、教育活動の成果や課題を明らかにして次年度に向けての準備を進めております。保護者のみなさまからいただいたアンケートとご意見も学校関係者評価委員（学校評議員さんを含む）のご意見もいただきながら来年度に向けて進めております。ホームページにも掲載させていただきますのでご覧ください。

群読グランプリはじめました



1月26日(水)に前田小学校として初めての「群読グランプリ」を開催しました。寒い朝でしたが、体育館の中は、熱気ムンムンでした。スタートは3年東組の「私と小鳥と鈴と」。みんないい顔、ポーズの工夫が良くて、いつの間にこんなに上手に発表できるほど練習したのでしょうか。これに続く他の学年もテンポがよくて、第1回にしては上出来と思いました。2年西組の「さかなやのおっちゃん」は関西弁のイントネーションがととても楽しく会場もうきうき。何でも「やればできる前田っ子」です。学び合い・聞き合い・響き合いが 群読のよさだなと感じました。次回が楽しみです。

今月の「道徳の日」は…

道徳教育推進教員 辻 徹

2月の道徳の日は、17日(木)です。この日には、学習参観と学年団PTAがあります。今年度最後の学習参観となることから、下学年を中心に学習発表会を開く学年も見られます。今の学年における1年間の成長を確認するよい機会です。お子様の(当日の授業中の)言動だけでなく、1年間を振り返った学習面や生活面での伸びについて話題に取り上げることで、子どもたちが自分の成長に気づき、意欲をもって次の学年へ進めるようになることを期待しています。

※今回の「道徳の日」で、高めたい道徳的価値は…「希望・勇気、不とう不屈(より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する)」です。また、家庭や社会全体で子どもたちの成長を見守り、心を豊かにはぐくんでいくこともねらっています。

一日の生活の中で大切にしたいもの・・・

毎年、生徒指導だよりでお知らせしたことは、生活づくりの大切さ、非行防止、交通安全、携帯電話やインターネットの使い方などです。

これまでの話をまとめると、子どもたちの生活の中で大切にしたいものが見えてきました。下に記述したことは、わたしたち人間が社会の中で暮らしていくための基礎になるものです。すぐには効果がでなくとも長く続けることで、豊かな心が育ち、学習効果が高まるとともに自己肯定感が育ち社会の中での生きる力がしっかり身につきます。

毎日、がんばりましょう。

- ・ 生活リズム（早寝・早起き・朝ご飯）をきちんとしよう。
- ・ バランスのよい食事をしよう。
- ・ あいさつや返事、そして、服装をきちんとしよう。
- ・ 褒め言葉を大切に上手な言葉かけをしよう。

毎日の何気ない生活がとても大切だということをご理解いただき、保護者の皆様のご協力をいただけるようお願いいたします。



人権教育シリーズ④ 「テレビ番組のテロップ」

児童・進路支援担当 入谷 祐司

我が家は、リビングのとなりが寝室になっています。先日、子どもをとなりの寝室で寝かしつけているということで、私はリビングで音量をゼロにしてテレビを見ていました。音が全く聞こえないので出演者の表情や動作だけで番組の内容を理解しようとがんばってみました。トーク番組だったので、出演者が楽しそうに会話をしていました。どんな話か知りたいのにわからないので、もどかしい気持ちになっていました。

その時、画面に出演者が発言した言葉がテロップとして出されました。会話の全てではないですが、要点をところどころ表示してくれたので、音がなくても随分と内容が理解しやすくなりました。最近では、どの番組でも利用されています。テロップを多用することについては、賛否両論ですが、人権の視点で考えてみると、耳の不自由な方や高齢者だけでなく、番組を全ての人が楽しめ、分かりやすくするために、テロップはとてもすばらしいものだと思います。

普段何気なく見ているテレビから、考えるきっかけを与えてくれた、なかなか寝つかない我が子に感謝です。



教育相談だより 「イエス」「ノー」では答えられない質問を

教育相談担当 中井世子

新聞・雑誌の記者がインタビューするときのコツの1つは、相手に「イエス」「ノー」で答えられない質問をすることだと言われています。

例えば、「あなたは〇〇大学の学生ですか?」「ハイ」「〇〇学部ですか?」「イエエ」というような質問では、相手からそれ以上、何の話も聞き出せないでしょう。こんなわけで、すぐれたインタビュアーほど、限られた答えではなく、その人ならではの独自性と個性を引き出すことができるそうです。

このインタビュー方式は、親が子どもと話すときにも効果を発揮します。「友達の家で楽しかった?」といった聞き方では、子どもが答えられる範囲は決まってしまう。少なくとも、「何が」「どこで」「いつ」「どうして」「どう思う」くらいのことは、子ども自身に考えさせるように問いかけをする方が、思考力・表現力などの点からも効果が大きいそうです。

「いつ、おばあちゃんに電話したらいいと思う?」「どうして、あの子は怒ってるんだと思う?」という質問はどうですか?

